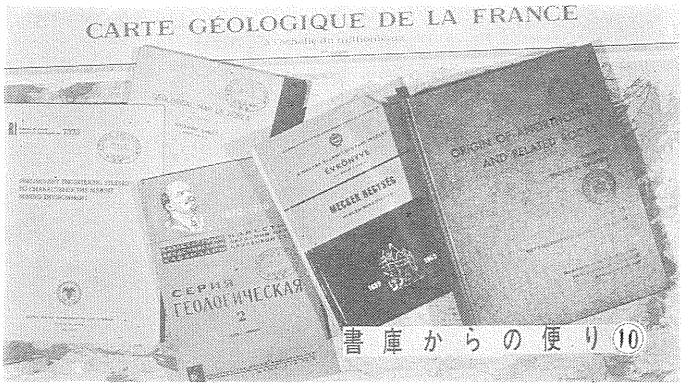


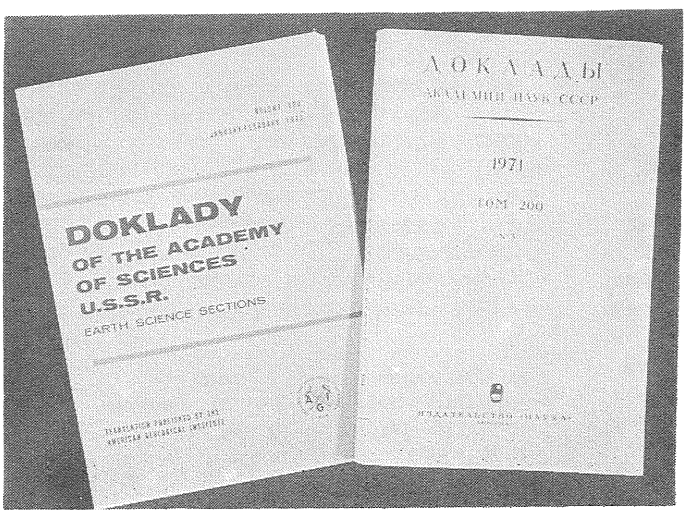
資　料　室

おもにソ連の文献を英訳している定期刊行物は（その5）で述べたもの以外になお数種入庫しています．　今回はそれらについてお話しましょう．

1）「Doklady of the academy of science U.S.S.R.—earth science sections」について

これは　近ごろ　学会などでしばしば引き合いに出され　あるいは論文に引用されるようになってきた雑誌ですが　当書庫でも借出の多い雑誌の一つです　（発行：American geological institute）（第1図）．　でも　もっとも多く引用しているのは　アメリカ・フランスの地質研究者で　まだ日本での利用度は低いといえます．

もとの報告—Доклады академии наук СССР（ソ連科学アカデミー学術報告　第1図）—は年6巻36冊の発行で　すでに198巻まで出版され　数学その他20の理学分野の論文が掲載されている26cm×16.5cm　1冊150p.前後のものです．　1つの論文が2～5p.程度に短かくまとめたものばかりという点は　この雑誌の大きな特徴でソ連国内ではもっとも権威のある論文発表誌の一つです．



第1図

なお　これとは別に　ソ連を構成する15の共和国がそれぞれ科学アカデミーを組織していて　その各科学アカデミーが独自に科学アカデミー学術報告を出版していますが　これらの英訳誌はありません．

さて英訳誌の方は年6冊で　地球物理学・地質学・鉱物学・火成岩石学・堆積岩石学・岩石記載学・鉱床学・地球化学・古生物学・水理地質学・海洋学・構造地質学関係の論文に限って完訳・集録してある 25.5cm×18cm 1冊 200～250p. 程度の雑誌です（第1図）．　36冊にわたって分散している論文を分野別に6冊にまとめてあるわけですから　もとの雑誌よりも利用しやすくなっています．　ここで近著の「Doklady」（Доклады の1970年第190巻関係）のページを開いてみます．　もとの雑誌と比べてみれば　関係論文が洩れなく英訳・集録され原著論文の表現の回りくどさ　ひいてはロシア語の回りくどさをそのまま再現しないで　直截に意訳するよう努力したことがよくわかり　原文よりも理解しやすくなっていることが非常にこの英訳誌の価値を高めていると思われます．　おそらく　これはロシア語にすぐれた地学関係の専門家の手を経ているためでありましょう．

内容的にいえば「Доклады」は大きな総括研究を行なう場合に必要な個々のデータを明らかにするという役割を負っているものと見受けられます．

2）「Geotectonics」について

このもとの雑誌はソ連科学アカデミー発行の「Геотектоника」（年6冊　26cm×16.5cm 1冊100～140p.　第2図）でその取り扱い内容は構造地質学に関係ある原著論文・短報・書評・学会記事に分かれています．

英訳誌「Geotectonics」の方は版が大きく（第2図）28cm×21.5cm　50～70p. で学会

記事までも含めた全文完訳という特徴をもっています(発行：American geophysical union). 衆知のように 地質学の世界に流れている四つのおもな学派 すなわち ドイツ学派 フランス学派 アメリカ学派そしてソ連学派の中でのソ連地質学の特徴は「広域の地質発展史の中で個々の地質現象を位置づけ 全体を総括する」という点にあるわけですから 当然 構造地質学やその関連分野の学問 たとえば地球物理学はとくに重視されてきたし 今もますます力が注がれているわけです.
そのことを第2次世界大戦期間の米ソ学者交流以来熟知してきたアメリカの関係者が その知識の吸収に注意を払っているのは当り前かもしれません. それは この英訳誌の内容の取り扱いかたからも十分にうかがえます.

さて 最近着の「Geotectonics」とその原雑誌「Геотектоника」1970年5号を開いて 読み比べてみましょう. まず 注意して欲しいのは挿図で それぞれの原図の多くが $^2/_3$〜$^1/_8$ に縮少され 幾らか読図しがたくなっていますので 必要な方は一応もとの雑誌に当ってみられるようおすすめします. 図上の露文もすべて英訳されているので 原図を手にしても読むための不便は全くありません.

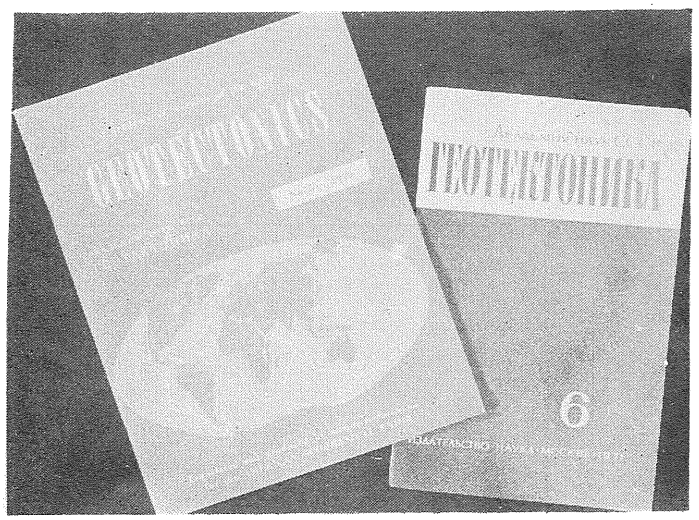
英訳上の若干の問題点を申し上げますと まず地名と人名が正確を欠いていることが多いようです. 何せ日本の上国鉱山が Jekoki になったり ドイツのエルツ山脈がエルツ (Erz) の露訳 Руда の形容詞 Рудный の英文アルファベット化である Rudny で現わされたりしていますので 巻頭論文「Tectonics of the Khubsugul trough, Mongolia」の Khubsugul も正しくは Hobsogol でなくてはなりません. ついでにいいますと ウドカン銅鉱床の Удокан の形容詞 удоканский をそのまま英文で Udokanskii としたり ニキトフカ水銀鉱床の

第3図

Никитовка の形容詞 никитовский も Nikitovskii と訳したりする場面が少なくありません. この流義でいけば 千葉県はチビンスキー県になってしまいますし 秋田県はアキチンスキー県になるわけです. 人名や機関名も少し注意して 実名を別途に確かめて訳して欲しい点もあります. これは別の雑誌での例ですが 東大の立見教授が prof. T. Tatsume 東北大学が Sendai University とされていたこともあります.

閑話休題. しかし 訳文は全体として見事なものです. 日本語訳よりもやりやすいという利点がよく活用され probable や possible などうまく使いわけられています.

以上の2誌は その目次全部を「おん・ろーん」に採録して 支所と各出張所 本所の各部図書委員に配ってありますからご利用願います.



第2図

なお 以上のほかに American institute of physics 発行の「Soviet Physics—Crystallography」 American geophysical union 発行の「Bulletin of Academy of Sciences, U. S. S. R.—Atomospheric and oceanic physics」と「Bulletin of Academy of Sciences, U.S.S.R.—Physics of the solid earth」の3種の英訳定期雑誌が入っています(第3図). いずれもソ連科学アカデミー発行の学術雑誌である「Кристаллография」「Известия—Атомосферическая и океанская физика」「Известия—Физика земли」の完訳誌です. これらについては チャンスがあれば おしらせすることにして一応ペンをおきます.